

2026年6月30日

報道関係者各位

株式会社 FRONTEO

**米ワシントン D.C.のアメリカン大学で、
FRONTEO 代表取締役社長・守本正宏が講演**

人間中心 AI の有効性と「KIBIT」による科学的発見支援の競争優位性を発信

株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本 正宏、以下「FRONTEO」）は、2026年6月10日（現地時間）、米国の政策形成・国際課題の解決を担う人材を多数輩出するアメリカン大学（所在地：米国ワシントンD.C.）において、代表取締役社長の守本 正宏が講演を実施したことをお知らせします。



本講演において守本は、AI市場の拡大が進む中で、科学分野におけるAIの役割は単なる効率化にとどまらず、「人間の意思決定および発見能力を補完・強化すること」にあると強調しました。特に、仮説の構築や検証といった科学的プロセスは人間に依存する領域であり、AIとの協働によって付加価値が創出される点を指摘しました。

また、FRONTEO独自の方程式駆動型AI「KIBIT（キビット）」^{*1}について、生成AIが得意とする業務効率化とは異なり、「未知の知見の発見」および「客観性の担保」に強みを有する点を説明しました。この特性は、創薬や医療、法務分野など、高度な判断と新規性が求められる領域において差別化要因となっており、当社の競争優位性の源泉であると位置づけています。

さらに講演では、AIの社会実装が進む中においても最終的な意思決定は人間が担う必要があることを指摘し、AIを活用した意思決定において、人間が担う役割の重要性が今後一層高まるとの見通しを示しました。

■アメリカン大学について

アメリカン大学は、1893年に米連邦議会の認可を受けて設立された米国の名門私立大学で、特に国際関係学の分野では、米国Foreign Policy誌の評価において全米トップ10にランクされる名門校として知られています。米連邦政府機関、議会、シンクタンク、国際機関等との強固なネッ

トワークを有し、米国の政策形成や国際課題の解決を担う人材を多数輩出してきました。本講演は、同大学が学生・研究者に最先端の研究や産業界の知見に触れる機会を提供するセミナーシリーズ「Summer Undergraduate and Graduate Experience in Research Seminar Series」の一環として実施されたものです。

■FRONTEOの米国展開について

FRONTEOはこれまで、eディスカバリーおよびデジタルフォレンジック領域で培った解析技術を基盤に、ライフサイエンスAI分野へ事業展開を進めており、方程式駆動型AI「KIBIT」を中核として各種ソリューションの高度化および市場拡大を推進しております。

2025年6月に米国進出を本格化し^{*2}、同年7月には米国オクラホマ大学との共同研究^{*3}を開始するなど、AIを活用した革新的医薬品の研究開発を進めてきました。同共同研究では、2026年5月に、FRONTEOがAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory (DDAIF)」^{*4}の技術を用いて抽出したすい臓がんの標的分子候補について、オクラホマ大学においても細胞増殖抑制効果が確認され、今後動物実験へと研究を進める段階に入ったことを発表しています^{*5}。

今後もFRONTEOは、方程式駆動型AI「KIBIT」の社会実装を通じて、国内外の研究機関、教育機関、公的機関との連携を強化し、医学・薬学研究の発展、革新的医薬品の研究開発、およびアンメット・メディカル・ニーズの解消に貢献してまいります。

*1 方程式駆動型AI「KIBIT」：FRONTEOが独自開発した人工知能。方程式を用いることで非連続な発見、因果関係の把握、高い再現性を実現。学習プロセスの軽量化によりCPUレベルで高速・高精度の解析を可能とします

*2 2025年6月25日付プレスリリース：FRONTEO、米国進出を本格化 ライフサイエンスとテクノロジーに強みを持つ米Q Partnersと戦略的パートナー契約を締結, <https://www.fronteo.com/pr/20250625>

*3 2025年7月23日付プレスリリース：FRONTEOと米国オクラホマ大学、がん領域における創薬研究について共同研究を開始, https://www.fronteo.com/news/pr/20250723_02

*4 DDAIF：AIと創薬に精通したFRONTEOの創薬エキスパートが、KIBITの自然言語処理技術と独自の解析手法を駆使し、標的分子・適応症探索やその裏付けとなる仮説を提供するAI創薬支援サービス

*5 2026年5月13日付プレスリリース：米国オクラホマ大学、FRONTEOがAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」で発見したすい臓がん新規標的分子候補で、細胞増殖抑制効果を確認, https://www.fronteo.com/news/pr/20260513_02

■FRONTEO Drug Discovery AI Factory (DDAIF) について

【ご参考：製薬企業およびアカデミアとの取り組み】

URL：<https://www.fronteo.com/news/ddaif-list>

創薬の仮説生成



「FRONTEO Drug Discovery AI Factory (DDAIF)」は、自然言語処理に特化した方程式駆動型 AI「KIBIT (キビット)」(日本・欧州・米国・韓国特許取得済*) と、FRONTEO の創薬研究者および AI エンジニアの知見を融合した AI 創薬支援サービスです。疾患関連遺伝子ネットワークの解析や、標的分子候補に関する仮説の構築を通じ、医薬品開発における研究者の意思決定を強力にサポートします。本サービスはすでに複数の大手製薬企業で導入され実績を重ねています。

*Drug Discovery AI Factory に使われている技術は、FRONTEO が日本および欧州、米国、韓国で計 21 件の特許権を取得しています。

URL : <https://lifescience.fronteo.com/products/drug-discovery-ai-factory/>

■株式会社 FRONTEO について URL : <https://www.fronteo.com/>

FRONTEO は、自社開発の方程式駆動型 AI「KIBIT (キビット)」の提供を通じて、日夜、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断を支援し、イノベーションの起点を創造しています。当社独自の自然言語処理技術(日本・欧州・米国・韓国特許取得済)は、汎用型 AI とは異なり、教師データの量およびコンピューティングパワーに依存することなく、高速かつ高精度での解析を可能にします。加えて、解析した情報をマップ化(構造を可視化)する特許技術を活用することで、「KIBIT」が専門家のインサイトにダイレクトに働きかけることができ、近年、「KIBIT」の技術が創薬の仮説生成や標的分子探索にも活かされています。



「KIBIT」の独自技術およびアプローチを通じて、「集合知に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、情報社会のフェアネスを実現する」理念の実現に向けて、[ライフサイエンス AI](#)、[リスクマネジメント\(経済安全保障分野\)](#)、[ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野](#)、[ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野](#)、[リーガルテック AI 分野](#)、DX ([株式会社アルネッツ](#)) の各事業で社会実装を推進しています。

2003年8月創業、2007年6月26日東証マザーズ（現：東証グロース）上場。日本、米国、韓国で事業を展開。資本金915,057千円（2026年3月31日時点）。

※FRONTEO、KIBIT、Drug Discovery AI FactoryはFRONTEOの日本および欧州、米国、韓国における商標または登録商標です。

<報道関係者のお問い合わせ先>

株式会社 FRONTEO 広報担当

Email: pr_contact@fronteo.com 電話：080-4321-6692

<ライフサイエンス AI 事業に関するお問い合わせ先>

株式会社 FRONTEO ライフサイエンス AI 事業本部

<https://www.fronteo.com/ja/contact/business>